

# 後援会だより

札幌大学と保護者を結ぶホットライン

札幌大学後援会広報誌 Vol.49

発行/札幌大学後援会事務局 発行日/2017年10月31日 〒062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1札幌大学内 TEL(011)852-9749(直) http://blg.sapporo-u.ac.jp/koenkai

## 情報共有とコミュニケーションの 貴重な機会として、『札幌大学後援会総会』と 『保護者懇談会』を今年も開催!

### 【平成29年度・式次第をレポート】

「札幌大学後援会」では、保護者の皆様と大学と後援会の活動をご理解いただき、ご協力を賜る総会を、今年も去る6月3日(土)に開催いたしました。同時に大学と共催の保護者懇談会も実施し、ご子女の修学状況や進路について、保護者の皆様とアドバイザー教員との間で熱心な話し合いが行われました。今号では、その詳細をレポートします。

### 『札幌大学後援会総会』 では、昨年度の事業報告と今年度の 事業計画を発表!

日時/平成29年6月3日(土) 午前11時  
会場/図書館1階学生立志テラス(Swing)  
「手厚い補助事業により、  
本年も学生をサポート!」

総会は、昨年度の活動を報告し、来年度の事業計画(案)と収支予算(案)について、保護者の皆様にご理解とご承認を賜わる機会となりました。それだけに、今年も会員である保護者の皆様にご出席いただき、厳粛な議事が行われました。最初に平成28年度事業活動報告および、決算書の開示による平成28年度の収支が報告され、監査報告書をもとに満場一致で承認を得ました。次



猪狩会長(左)から鈴木学長(右)に援助金目録が手渡されました。

に平成29年度の事業計画が発表され、学生の課外活動、奨学金への援助、学外研修、資格取得や受験の資金援助、外国人留学生への援助など各種補助事業の継続が承認されました。

本年は大学が創立50周年を迎え、学生たちが建学以来のUI(ユニバーシティ・アイデンティティ)であるアクティブラーニングを学び、実践しながら、学修の向上とキャリアデザインの研鑽を存分に積むことのできる複数の施設整備が整備されました。後援会として、大学はさらに学生にとって快適なキャンパスを目指して施設整備の整備にあたることを確認しましたので、前述の施設整備の総予算の四分の一である2500万円の支援を慎重審議のうえ決定しました。

○施設整備 ①学生立志テラス(SWING)〔図書館1階〕、②子育てサロン(Stove)〔6号館2階〕、③ヘルメス(故山口昌男元学長の自宅書斎等を再現した展示空間)〔図書館2階〕  
また、例年秋に開催の大学祭、文連祭について、周年事業として位置づけ6月に開催されたことから、学生の広告営業の影響を理由として増額援助の要請を受け、平成29年度に限り増額援助することが提案されました。この計画を念め、全学での事業計画に対する承認を得ました。後援会は今後とも学生に対する手厚い支援を行いながら、会員の皆様と大学をつなぐ架け橋として最善を尽くしていく所存です。

\*1 大学の個性、\*2 能動的学修・具体的には発見・問題解決・体験調査学習、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等、\*3 自身の仕事人生のプランを自ら設計し決定すること

### 「学生の修学、生活、就職をサポートする、援助金の贈呈式が開催されました」

保護者の皆様から承認を得て、後援会から大学に対して援助金を贈る「贈呈式」を行いました。猪狩会長から鈴木学長に目録が手渡され、「学生の修学、生活、就職を支援するため、有意義に活用させていただきます」と感謝の言葉を頂戴し、贈呈式は無事終了しました。



後援会の事業の全てが報告・発表され、満場一致の承認をいただきました。

### 学生一人ひとりの詳しい状況を知る、 『札幌大学保護者懇談会』を開催!

日時/平成29年6月3日(土) 午後1時  
会場/札幌大学プレアホール(5501-2号館3階)

午前の総会に引き続き、午後から開催された保護者懇談会にも、多くの保護者の方が来場されました。懇談会は先ず、今年度から学長に就任された鈴木淳一様の挨拶からスタート。続いて猪狩哲夫後援会会長の言葉があり、プログラムの筆頭である全体説明へ。担当の瀧元副学長から、「大学生活と就職状況について」説明があり、中でも就職状況への関心は高く、保護者の皆様は熱心に耳を傾けていました。



続いて、「札幌大学トピックス」。このコーナーは札幌大の近況を学生たちが報告するというもので、今回は、大学と地域が連携することの重要性を説いた「田学連携プロジェクト」について説明があり、興味深いレポートとなりました。また、本年は札幌大が50周年を迎えることから、昨年に引き続き合同開催となった、大学祭と文連祭についても詳しい説明がありました。さらにキャリアデザイン学科准教授、横島先生より「札幌大学50年の歴史」と題された講演があり、長年にわたる本学の歩みと実績に対する認識を新たにすることができました。

全体説明の後、いよいよ個別面談がスタート。学生一人ひとりのキャンパスライフや修学状況について、踏み込んだ話し合いが行われました。同時に大学進学を考えているお子様を持つ保護者の方との面談(進学説明会)も行われ、こちらも大変好評いただきました。

総会および、保護者懇談会は盛況のうちに滞りなく閉会いたしました。後援会では総会の一層の充実を目指し、次年度の開催に向けて早くも準備を進めており、多くの皆様のご来学をお待ちしています。

### 参加された保護者の声

- 全体説明の内容について**
  - 多様化している時代に合った、有意義な会でした。仕事している私(親)にとっても、今の時代の勉強になりました。社会人になっても日々勉強ですね。
  - 札幌大学の歴史、現在について、就職状況など、説明がわかりやすかったです。学生生活では動画を用いて、生徒の様子がわかりました。
- 個別懇談での説明・対応について**
  - 札幌大の強み、コミュニケーション能力、社会人になる為の教育、ご指導に感謝しております。家では見せない一面があるなど、子供のアドバイス、今後についてもご教示いただきありがたいです。
  - 学生一人ひとりを注意深く見て下さっているのがよくわかり、就職へ向けてのアドバイスも的確でありがたかったです。

### 後援会から

本年度、札幌大学は創立50周年を迎えました。記念すべき第50回大学祭、第42回文連祭が6月24日、25日の両日に開始されました。詳しくは本号3面に掲載していますが、メモリアルな今般の開催には後援会として100万円の支援を行いました。この開催にあたり猪狩哲夫会長が大学祭パンフレットに寄稿したメッセージを原文のままご紹介いたします。

【Message】  
「サツダイの時間軸のなかで、個性を開花させるための経験値を醸成していただきたい!」

札幌大学後援会の会員の皆さまを代表しまして、記念すべき第50回大学祭、そして同時開催の第42回文連祭の開催にあたり、ご挨拶を述べさせていただきます。

本日、例年秋に開催の大学祭が、新年度を迎え間もない6月に開催の運びとなり、大学祭実行委員会が中心となり準備を進めてこられたイベントがこのように盛大に開催されますことを心より喜び申し上げます。札幌大学は1967年に生気あふれる開拓者精神を掲げて開校、本年50周年を迎えました。この度のテーマ「Going!」(さらにその先へ)に基づく大学祭、文連祭は、大学が次の半世紀に向けて地域社会に宣言する一環として、「地域の価値を創造する(「Locals go global」)をコーポレート・スローガンとして掲げており、この実践に当たると捉えています。

また、地方創生といわれる今、地域住民の方もプログラムにご参加いただいていると伺っており、大学が「地域共創」を全学共通の教育理念とすることを社会に約束する学生が「地域における新しい価値を他者との協働によって創造する」という意識と資質を兼ね備えた人材に成長するには、座学以上に地域住民の方との交流等で体験知を積み重ねていくことが大切です。豊平区を始めとする地域住民の方には、ご協力、ご支援をいただくことに深く感謝を申し上げます。

### CONTENTS

- 札幌大学後援会総会
- 保護者懇談会
- 保護者の声
- 後援会から ..... 1面
- ゼミ紹介-荒木ゼミ
- 後援会役員名簿
- 文化系サークル補助金交付式 ... 2面
- 第50回大学祭・第42回文連祭
- 就職状況 ..... 3面
- 平成28年度事業活動及び
- 平成29年度事業計画 ..... 4面



荒木先生の別のゼミでは、この日近くの児童会館の子ども達を呼んでレクレーションを行いました。



1人ひとりが自主的に授業運営に参加しています。



児童会館の教職員の方たちを交えた自己分析の授業。

# ゼミ紹介

## 地域社会と積極的に関わり、学生自らが考え、企画し、実行する活動を通じて、コミュニケーション能力を養成!!

札幌大学では、所謂一般的な講義では得られない知識や社会性、体験などを養うアクティブラーニングを推進しています。これは「主体性をもって現代社会を生き抜く教養を備え、他者と協働し、地域共創を可能にする人材の育成」を目指す、「地域共創学群」の理念を实践するもの。その一つが荒木奈美先生による「臨床教育ゼミ」にほかなりません。今回は多彩な活動を展開する荒木ゼミをご紹介します。



臨床教育ゼミナール 地域共創学群 日本語・日本文化専攻 荒木 奈美 准教授

### 学生がさまざまな人と交流することによって、新たな化学反応が起きています

「赴任して7年になります。これまでは、文学教材を間に置き、描かれた人間関係から実社会に役立つコミュニケーションを学ぶ『文学ゼミ』を展開してきましたが、2年前から新たに『臨床教育ゼミ』として、プログラムを分けています。このゼミでは、学生が主体的に何をどのように学びたいか考え、実行することを大切にしています。」

さらに、「ご自身がもともと高校の教員を勤めてきた経験から、将来、教員をはじめ、人と関わる仕事に就きたいと希望する学生にとって、欠くことのできないコミュニケーション能力の養成を第1の目標と定めています。そこで、地域のあらゆる世代との交流を図る、さまざまなプログラムを展開。具体的には児童会館の協力を得て、子どもたちに『絵本の読み聞かせ』や、楽しいゲーム大会を含めた、さまざまな『レクリエーション活動』などを行っています。また、中学・高校との『交流イベント』や『宿泊研修』への参加、さらに、地域の高齢者とともに汗を流す、『農作業体験』も積んでいます。ゼミ長の3年生、加藤魁刀

さんは、高校の宿泊研修への参加を予定しており、その中で時間をもらって、交流イベントを企画中だと言います。

「年齢が近いからといって安心することなく、今の高校生が考えていることをしっかりと学びとりたいと思います。しかし、何より私たちの企画したレクを、先ずは楽しんでほしいですね」と期待を膨らませていました。同じ3年生の高崎純太さんは、高齢者の皆さんと一緒に農作業体験を重ねています。



高崎 純太さん (日本語・日本文化専攻3年生)

「新たな展開に大きな可能性を感じていますが、当ゼミの究極の目標は、学生による自主的な授業運営です。私はサポーターとして側面から一人ひとりとじっくり向き合えたら良いなと思っています。もう一つ、学生がこれまで出会った人、読んだ本、歩んできた人生経験から学んだことや、失敗談や挫折したことなどをまとめ、学外に出掛け高校生と交流する『出前授業』をやりたいですね」と今後の構想を熱く語っていました。

### 講義は学生に任せて、私は一人ひとりと向き合いたいと思っています

アクティブラーニングの導入により、学生たちが地域社会に飛び出し、大勢の人と交流することで、予測していなかった化学反応が次々に起きています。先生は言います。実際に取材当日も、兼ねてから交流のある豊平区内の児童会館の教職員の方たちが、「皆さんが日頃どのような授業を受けているのか見学したい」と札大を訪れ、学生の企画した自己分析を行う授業に楽しそうに参加されていました。



加藤 魁刀さん (日本語・日本文化専攻3年生)

また先生から、臨床教育を象徴する言葉に「Life」というキーワードがあると教えていただきました。これは本来、「生命」や「人生」を表す言葉ですが、臨床教育の分野ではこの言葉から、「人の個性や生き方を尊重する」という意味を引き出すことを志向しています。その理想を実現するべく、荒木先生の視線は既に学生一人ひとりに注がれており、各自の個性を尊重しつつ、それぞれの目標をサポートする姿勢に徹せられていました。

#### アクティブラーニングとは？

「アクティブラーニング」とは、能動的学習のこと。教員からの一方向的な講義によって知識を得るのではなく、学生たちが主体的に掲げた課題に対し、仲間と協力しながら解決策を求めていく指導・学習方法を指しています。グループワークやディスカッション、体験学習、調査学習などもこれに該当します。



#### 文化系サークル補助金交付式

日時/平成29年6月20日(火)  
会場/第一会議室

志を立て成功するために、恥をかきことを恐れてはならない!

今年度も手厚い支援を実施!

当後援会では、体育会系サークルだけではなく、さまざまな分野で活躍する文化連合会所属の各サークルに対しても、手厚い支援を行っています。今年度も申請のあった8団体への補助を決定し、関係各位列席のもと、交付式を挙行了いたしました。式次第は猪狩後援会長の挨拶から幕開け。毎年、この貴重な機会に、札大の第一期生として、会長から後輩の学生に向けて金言が贈られています。今年「恥を知るを以て要と為す」という言志四録の一節でした。これは「恥をかい、そこから学び、次ぎに活かしていくこと」の大切さを示したものです。

交付8団体  
●文芸部 ●アビロード音楽研究部 ●アニメーション部 ●ジャズ研究会 ●軽音楽部 ●写真部 ●映画研究会 ●アマチュア無線部

#### 札幌大学後援会役員名簿

役員 (平成29年度~平成30年度)		
役職	氏名	担当
会長	猪狩 哲夫	総括・財務
副会長	日浦 和長	事業
〃	北崎 義弘	広報
〃	宮本 みどり	〃
〃	太細 博文	事業
監事	戸井 敏夫	〃
〃	岩橋 忠徳	〃
運営委員	酒井 春樹	事業
〃	寒河江 正人	〃
〃	上野 洋子	広報
〃	林 明人	事業
〃	谷口 紀代美	広報
〃	庄子 史人	事業

#### 新役員あいさつ

庄子 史人

この度事業担当運営委員をさせていただくことになりました庄子で御座ります。子供は日本の宝であり、その宝を育てることに少しでもお役に立てればと願っております。



金澤 裕哉さん (経営学専攻2年生)

Q 今年の大学祭のテーマは？  
 岡堀 今年のテーマは『Going!』さらにその先へ。創立50周年という記念すべき年ですが、これが札幌大の到達点、ゴールではなく、ここからさらに前に進んでいくというという、私たちの決意表明にもなっています。  
 Q プログラムにはどのようなものがありましたか？  
 金澤 今年は正門から中央棟までの野外エンターテインメント部分に、グルメブースを設けました。例年だと飲食スペースは各自で工夫していた

Q 先ず、皆さんが実行委員になった経緯をお聞きしたいのですが？  
 岡堀 1年生だった昨年にも参加していたことから、今年も参加しました。委員長は先輩に指名されてなりました。本学では代々指名制度なんですよ。(笑)  
 金澤 2年生でありながら、大役を任せられたという点ではプレッシャーを感じましたが、私も昨年参加してましたので、その経験がプラスになりました。  
 佐藤 私は1年生なので初参加だったんですが、高校時代も文化祭を企画、開催するスタッフとして活動してました。もともと皆で盛り上がるのが好きでしたので、自ら希望して実行委員会に入りました。  
 Q 例年ですと10月の開催ですが、今年は6月。その辺の苦労はありましたか？



岡堀 裕真さん (実行委員長) (経営学専攻2年生)

岡堀 昨年12月に実行委員会を立ち上げ、計画的に準備してきましたので問題はありませんでした。例年だと10月の開催に向けて、夏休みを利用してスポンサーの募集や広告営業に励まなければなりません。今年度は「後援会」様から多大なご支援を賜わり、実行委員会一同、大変感謝しています。  
 Q 今年の大学祭のテーマは？  
 岡堀 今年のテーマは『Going!』さらにその先へ。創立50周年という記念すべき年ですが、これが札幌大の到達点、ゴールではなく、ここからさらに前に進んでいくというという、私たちの決意表明にもなっています。

Q 今年、皆さんの苦労はありましたか？  
 金澤 飲食スペースを初めて用意したので、その辺の苦労はありましたね。私は飲食部門の管理担当でしたので、保健所の指導を得ながら、衛生管理と火気の取り扱いには充分注意しました。焼きそばやポップコーンなど、どの店も賑わいましたが、中でもOBの方が出店した貝付きのホタテ焼き店は大盛況でした。  
 佐藤 私のお扱いはアイドルのステージです。ご当地アイドルを招いてのライブには、多くのファンが集まり、とても盛り上がりしました。(笑)  
 岡堀 私は「よさこいソーランFESTIVAL」。札幌チームはもろろん、10の団体を招いて、演舞を披露していただきました。お馴染みのイベントなので、地域の皆様にも好評でしたね。  
 Q イベントは成功だったと言えますか？  
 岡堀 事故や事件、トラブルもなく、無事に終わることができたので、その意味では成功と言って良いと思います。今回の大学祭の特徴は酒類の販売をしなかったこと。アルコールの力を借りなくても、充分楽しめる、盛り上がるのができた点、胸を張れますね。酒類の販売がない理由の一つに、今回の大学祭がオープンキャンパスを兼ねていたという背景があります。多くの高校生が見学に訪れていましたので、大学祭を通じて札幌大の魅力が少しでも伝わったなら、そんな嬉しいことはありません。



Q 今回、実行委員として学んだことは何ですか？  
 金澤 私は予算の管理も担当していたのですが、簿記会計など、これまで培ってきた能力を活かすことができました。これだけ大きなイベントですから、決して一人でできるものではなく、多くの人と協力することの大切さも実感できました。  
 佐藤 来年度も委員会に参加したいと思っていますので、学んだスキルを活かし、質を落とさないようにしたいですね。  
 岡堀 規模の大きなイベントですから、委員長として全体の進行具合を把握するのは大変でした。そこで今回学んだのは、情報共有の重要性ですね。先輩の皆さんには、その辺を注意してほしいと思います。  
 Q 今回の大学祭を総括してください。  
 岡堀 今年度のテーマを踏まえ、51回目の大学祭は、学生全体を巻き込み、もっと大きなイベントにしてほしいですね。新たな一歩に向けて、私も来年度は、いち委員として後輩のお手伝いをしたいと思います。

# 今年のテーマは『Going!』。さらにその先へ。50回はゴールではなく、さらに先に進んでいこうという願いを込めて！

## 第50回大学祭・第42回文連祭 実行委員会メンバーを迎えて!!



佐藤 蓮さん (日本語・日本文化専攻1年生)

### 平成28年度卒業生の求人状況・就職状況・本年度の現況

#### ■就職決定状況

前年に続き、2年連続の採用スケジュール変更(採用選考活動開始が8月から6月へ)となった平成28年卒の採用・就職活動は、企業の旺盛な採用意欲も影響し、短い期間の中で採用活動が進行する「超短期決戦」でした。結果、企業・学生ともに、いかに効率的に活動できるかが焦点の1年でした。企業側の積極採用もあり、年度当初から12月まで前年度同月比で毎月3ポイントほど就職率が上向きで推移していましたが、正月明けからは学生の内定報告件数が非常に少なくなりました。未内定者への大学対応としては、継続的に個別面談で指導にあたり、地域共創学群の初の卒業生最終内定率は大学94.6%(昨年度学部生93.3%)、短大90.0%(昨年度95.8%)となりました。  
 本年度も、学生にとって有利な就活環境であり、内定率は昨年同時期と同率です。しかしながら、超短期決戦の波にしっかり対応できた複数内定組と、過密スケジュールに乗り遅れた未内定組との二極化が見られます。公務員志望から民間企業へのシフト、部活で十分な活動ができていない、結果に繋がらず意欲低下、と内定に至らない理由には違いない。就職担当者との個人面談において、自分はどうしたいのかを考える機会を重ね、次の一歩に導いてまいります。ありがたいことに、本年度も企業からの札幌大採用意欲は高く、学内単独説明会の申込は増加しております。昨年度は115回設定し、本年度も70回に達するところです。本学OB・OGが活躍している優良企業が多く、学生と企業の相性が良い結果に繋がっております。このような支援を続け、内定がゴールではなく、社会に定着できる学生を輩出していけるよう努めてまいります。

#### ■平成29年3月卒業生の主な就職先

- 大 (株)北洋銀行/北海道銀行/旭川信用金庫/SMBC日興証券(株)/かんぽ生命保険/つうけん/六花亭製菓(株)/北海道コカ・コーラボトリング(株)/クリナップ(株)/(一財)札幌市水道サービス協会/北海道旅客鉄道(株)/札幌道ステックス(株)/日本通運(株)/AIRDO/ANAスカイ札幌/ANA新千歳空港(株)/国分北海道(株)/富士ゼロックス北海道(株)/リコージャパン(株)/花王カスタマーマーケティング(株)/コクヨ北海道販売(株)/大丸(株)/P&Gプレステージ合同会社/ほくやく/イオン北海道(株)/ローソン/ジョイフルエーカー/サッポロドラッグストア/DCMホームマック(株)/ツルハ/カネカモト/アインホールディングス/農協観光/エイチ・アイ・エス/日本赤十字社/日本郵便(株)/(公財)札幌市青少年女性活動協会/公立学校教員(道内中学校・高等学校)/地方公務員(道内市町村職員)
- 短大 東宗谷農業 協同組合/ホクレン農業 協同組合連合会/クリナップ(株)/北海道銀行/日本仮設(株)/ANA新千歳空港(株)/日本郵便(株)/(一財)さっぽろ健康スポーツ財団

#### ■業種別就職比率

大学は、小売業17.4%(昨年13.2%)、卸売業13.1%(昨年13.4%)、公務員・教員11.7%(昨年9.7%)、サービス業7.2%(昨年10.2%)、金融・保険業5.5%(昨年8.0%)と、例年どおり5つの業種で54.9%を占めました。  
 短大は、サービス業27.9%(昨年13.0%)と大幅に増加し、金融・保険業5.5%(昨年17.4%)と卸売業5.5%(昨年13.0%)などが同率となりました。

#### ■求人件数

大学を対象とする求人件数の総数は2,722件(昨年2,590件)、うち道内企業の求人件数は918件(昨年868件)、道外企業は1,804件(昨年1,722件)とすべてにおいて増加しました。  
 短大においては、1,421件(昨年1,313件)、うち道内企業の求人件数が533件(昨年507件)となり、昨年同様、札幌を中心とする道内企業への就職を希望する割合が高い短大生にとっては明るい求人内容となりました。

#### ■就職決定状況(大学)

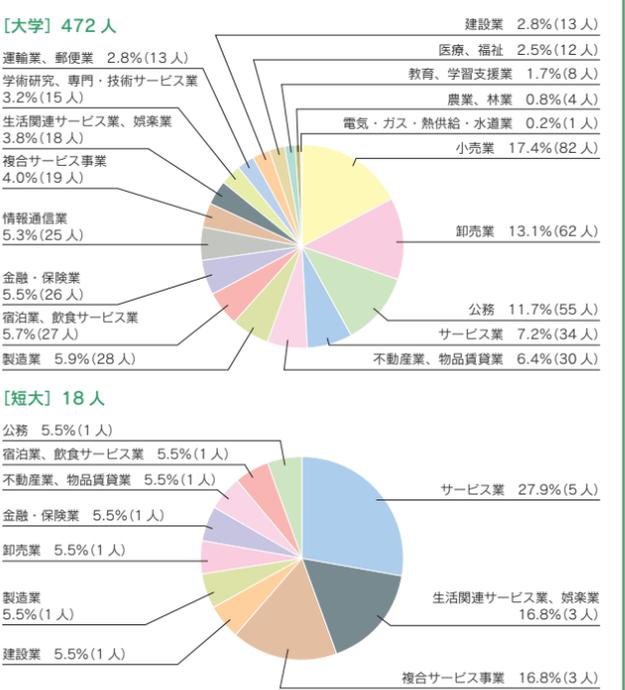
学部	区分	卒者数	就職希望者数	就職決定者数	就職決定率	前年度就職決定率
地域共創学群		591	499	472	94.6%	93.3%

#### ■就職決定状況(女子短期大学部)

学科	区分	卒者数	就職希望者数	就職決定者数	就職決定率	前年度就職決定率
キャリアデザイン		31	20	18	90.0%	95.8%

注1: 決定率の算出方法は、就職決定者数を就職希望者数で割ったものである。

#### ■業種別就職比率(平成28年度)



# 平成28年度事業活動及び平成29年度事業計画

## 平成28年度事業活動

(1) 補助事業 ※補助事業とは、後援会が学生に対して行う支援事業です。具体的には、キャンパスライフ全般および課外活動、イベントなど、さまざまな活動に対する資金援助を主としています。

### ①課外活動への補助

交付団体名		大会名	支出金額
弓道部	第64回全日本学生弓道選手権大会		216,000
	第47回全日本学生弓道遠的選手権大会		
剣道部	第64回全日本学生剣道選手権大会		18,000
	第64回全日本学生剣道優勝大会		105,000
	第35回全日本女子学生剣道優勝大会		63,000
硬式庭球部	全日本学生テニス選手権大会 (男子84回/女子60回)		30,000
	平成28年度全日本学生室内テニス選手権大会		15,000
サッカー部	第40回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント		225,000
女子サッカー部	第25回全日本大学女子サッカー選手権大会		204,000
	第71回国民体育大会サッカー競技 (女子)		15,000
	大学女子サッカー地域対抗戦2017		105,000
柔道部	平成28年度全日本学生柔道優勝大会		117,000
	平成28年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会		9,000
	平成28年度全日本学生柔道体重別選手権大会		117,000
	第71回国民体育大会		15,000
	平成28年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会		135,000
準硬式野球部	第68回全日本大学準硬式野球選手権大会		252,000
	第34回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会		120,000
スケート部	第17回大学アイスホッケー交流苫小牧大会		225,000
	第10回東日本学生フィギュアスケート選手権大会		27,000
卓球部	第89回日本学生氷上競技選手権大会		45,000
	第83回全日本大学総合卓球選手権大会 (個人の部)		12,000
羽球部	第4回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会		36,000
	第67回全日本学生バドミントン選手権大会		81,000
男子バスケットボール部	第68回全日本大学バスケットボール選手権大会		372,000
女子バスケットボール部	第68回全日本大学バスケットボール選手権大会		252,000
男子バレーボール部	第35回東日本バレーボール大学選手権大会		228,000
女子バレーボール部	第69回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会		180,000
	第35回東日本バレーボール大学選手権大会		135,000
ラグビー部	第67回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会		375,000
陸上競技部	第85回日本学生陸上競技対校選手権大会		165,000
	第100回日本陸上競技選手権リレー競技大会		108,000
X-SPORTS部	KANADASTU slope		12,000
	Kinseiryuho TAKAHIRO Memorial CAP in Kurumayama		12,000
	第12回全日本学生スノーボードテクニカル選手権大会		12,000
	47week SJ&SS Morispo Cup 第35回JSBA全日本スノーボード選手権大会		48,000
	TB Inc CUP		12,000
	Takasu SuperPipe Sessions		9,000
野球部	平成28年台風10号による被災地支援ボランティア (南富良野町)		138,000
札幌大学キャンパス応援隊	救護の達人コンテスト (市民フォーラム内の参加)		18,000
<b>19団体</b>	<b>小計</b>	<b>4,263,000</b>	

交付団体名	文化系サークルの主な活動内容	支出金額
アマチュア無線部	アマチュア無線家との交流	50,000
写真部	写真展	50,000
映画研究会	映画上映大会	50,000
文芸部	部誌制作	50,000
ジャズ研究会	定期演奏会	50,000
アビーロード音楽研究部	ライブ	50,000
軽音楽部	大学祭ライブ	50,000
演劇研究会劇団ダイナマイト	演劇祭	50,000
アニメーション部	アニメーション作品の制作	50,000
<b>9団体</b>	<b>小計</b>	<b>450,000</b>

課外活動への補助金合計 4,713,000円

- ②札幌大学奨学金への援助.....10,000,000円  
 ③札幌大学学外研修援助金.....4,000,000円  
 ④札幌大学資格取得等奨励補助金.....1,000,000円  
 ⑤外国人留学生への援助.....2,400,000円  
 ⑥札幌大学大学祭・文連祭への補助金.....50,000円  
 ⑦学生用図書費の援助.....1,000,000円  
 ⑧学生表彰.....40,000円  
 ⑨卒業祝賀会への補助金.....1,000,000円  
 ⑩大学院生への援助.....220,000円  
 ⑪札幌大学保護者懇談会に係る旅費への補助金.....1,731,914円  
 ⑫札幌大学地域スポーツ・文化総合型クラブへの補助金.....300,000円
- 補助費支出合計 26,454,914円

## (2) 平成28年度 保護者懇談会実施

開催地	会場	開催日	参加人数
札幌	①札幌大学	6月11日 (土)	174
札幌	②札幌大学	9月18日 (日)	122
北見	③ホテルロイヤル北見	9月 3日 (土)	12
旭川	④アートホテルズ旭川	9月 4日 (日)	21
釧路	⑤ホテルクラウンヒルズ釧路	9月10日 (土)	14
帯広	⑥ホテルグランテラス帯広	9月11日 (日)	22
青森	⑦ホテルJALシティ青森	9月24日 (土)	22
函館	⑧フォーポイントバイシェラトン函館	9月25日 (日)	18
苫小牧	⑨グランドホテルニュー王子	10月 1日 (土)	9
	<b>合計</b>		<b>414</b>

保護者懇談会では就職をはじめ、さまざまなご質問やご相談にもお応えしております。地方の方は参加し易い主要都市での開催に是非ともご参加下さい。

(3) 【広報活動について】 「後援会だより」を10月30日、3月31日付けの年2回発行

(4) 札幌大学後援会総会 日時：平成28年6月11日 (土) 場所：札幌大学 2204教室

(5) 札幌大学後援会役員会 (第1回) 日時：平成28年5月17日 (火) 場所：札幌大学 第1会議室  
 (第2回) 日時：平成28年6月11日 (土) 場所：札幌大学 第1会議室  
 (第3回) 日時：平成29年1月31日 (火) 場所：札幌大学 第1会議室

## 平成28年度札幌大学後援会決算書

平成28年度収支計算書 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) 単位：円

科目	予算	決算額	増・減
<b>収入の部</b>			
前年度繰越金	62,143,277	62,143,277	0
第一種委員会費	28,360,000	27,990,000	△370,000
第二種委員会費	184,000	184,000	4,000
第三種委員会費	0	0	0
利息	20,000	1,296	△18,704
基金取崩収入	0	0	0
<b>合計</b>	<b>90,703,277</b>	<b>90,318,573</b>	<b>△384,704</b>
<b>支出の部</b>			
基金充当金	0	0	0
補助費	27,070,000	26,454,914	△615,086
消耗品費	70,000	26,030	△43,970
旅費交通費	450,000	371,990	△78,010
印刷費	1,100,000	1,051,488	△48,512
通信費	1,000,000	786,515	△213,485
支払手数料	50,000	8,532	△41,468
会議渉外費	1,970,000	1,513,478	△456,522
予備費	200,000	0	△200,000
<b>小計</b>	<b>31,910,000</b>	<b>30,212,947</b>	<b>△1,697,053</b>
当年度収支差額 (次年度繰越金)	58,793,277	60,105,626	
<b>合計</b>	<b>90,703,277</b>	<b>90,318,573</b>	<b>△384,704</b>

平成28年度資産 (現預金)・基金内訳表 (平成29年3月31日現在) 単位：円

勘定科目	前年度繰越金	3月末	増 減
<b>《資産の部》</b>			
現金 (事務室保管)	21,572	21,338	△234
普通預金 (北海道銀行西岡)	46,004,634	43,846,312	△2,158,322
普通預金 (北洋銀行豊平)	16,117,071	16,237,976	120,905
基金 (北海道銀行西岡)	26,000,000	26,000,000	0
基金 (北洋銀行澄川)	20,000,000	20,000,000	0
<b>資産合計</b>	<b>108,143,277</b>	<b>106,105,626</b>	<b>△2,037,651</b>
<b>《基金の部》</b>			
基金 (北海道銀行西岡)	26,000,000	26,000,000	0
基金 (北洋銀行澄川)	20,000,000	20,000,000	0
収支差額 (次年度繰越金)	62,143,277	60,105,626	△2,037,651
<b>基金合計</b>	<b>108,143,277</b>	<b>106,105,626</b>	<b>△2,037,651</b>

## 平成29年度事業計画

札幌大学後援会では、在学生を支援の主たる対象とし、各種支援事業を平成29年度も継続してまいります。

・主な事業計画は次のとおりです。

- ①後援会総会の開催 (後援会活動活性化の観点から保護者懇談会【6月の札幌大学での開催】との同日開催)、②札幌大学との共催による保護者懇談会の開催 (会議費、旅費交通費等の運営経費を補助)、③学生への経済的支援 (1) 課外活動への奨励金 (全国大会及びこれに準ずる大会等へ参加する部員への遠征費補助、文化系サークルの活動費を補助)、(2) 学外研修への奨励金 (国内外の宿泊研修、臨地研修等への参加者への資金)、(3) 資格取得・受験対策への奨励金 (能力開発センター開講講座の資格取得者への奨励金、正課授業に係る資格の受験者への奨励金)、(4) 外国人留学生への奨励金 (私費外国人留学生奨学金制度における資金補助)、(5) 札幌大学奨学金制度への奨励金 (成績優秀者に対する奨学金資金の奨励、経済的困窮度を重視した生活支援奨学金の奨励)、(6) 学生用図書費への奨励金 (選書ツアー用図書費及び学生希望図書費の資金)、(7) その他の奨励 (卒業記念祝賀会に対する奨励、大学院生に対する奨励、大学祭・文連祭に対する奨励他)、(8) 地域貢献活動への奨励金 (めえーずの活動資金を補助)、④広報活動 (『後援会だより』の発行)

## 平成29年度収支予算

収入の部 単位：円

科目	平成28年度決算額	平成29年度予算額	増減額 (決算額比)	摘要
前年度繰越金	62,143,277	60,105,626	△2,037,651	
第1種委員会費	27,990,000	27,780,000	△210,000	10,000円×2,778人=27,780,000
第2種委員会費	184,000	150,000	△34,000	3,000円×50口
第3種委員会費	0	0	0	
受取利息	1,296	2,000	704	
基金取崩収入	0	0	0	
<b>合計</b>	<b>90,318,573</b>	<b>88,037,626</b>	<b>△2,280,947</b>	

支出の部 単位：円

科目	平成28年度決算額	平成29年度予算額	増減額 (決算額比)	摘要
基金充当金	0	0	0	
補助費	26,454,914	23,550,000	△2,904,914	札幌大学奨学金援助金 課外活動補助金・卒業祝賀会・大学祭・大学院生への奨励金 外国人留学生奨学金援助金 学外研修援助金・資格取得等奨励補助金 学生用図書費の奨励 表彰 保護者懇談会 (大学分旅費) 地域貢献費 (札幌大学地域スポーツ・文化総合型クラブ) 事務用消耗品
消耗品費	26,030	70,000	43,970	コピー用紙
旅費交通費	371,990	450,000	78,010	役員会、保護者懇談会 (地方)
印刷費	1,051,488	1,100,000	48,512	封筒作成 会報作成 (後援会だより) 印字 その他印刷
通信費	786,515	900,000	113,485	後援会だより発送作業・発送費2回分、会費納入案内 役員会、総会案内・保護者懇談会等の案内他
支払手数料	8,532	30,000	21,468	会費納入振込手数料・業者への振込手数料
会議渉外費	1,513,478	1,820,000	306,522	役員会会議費、総会、札幌会場保護者懇談会参加者昼食費、地方会場費 祝儀等
予備費	0	200,000	200,000	
<b>小計</b>	<b>30,212,947</b>	<b>28,120,000</b>	<b>△2,092,947</b>	
次年度繰越金	60,105,626	59,917,626		
<b>合計</b>	<b>90,318,573</b>	<b>88,037,626</b>		

## 編集後記

札幌では7月上旬から連続の真夏日を記録しつつも7月15日を最後に一度も真夏日になりませんでした。25度以上の夏日も多く厳しい暑さのなかで授業を受ける学生にとっては、8月8日から始まる夏休みが待ち遠しいという会話もあちこちで聞かれました。待ち焦がれてやまない夏休みも終わらないうちに、9月になると西岡のキャンパスではいち早く気温が下がり、季節はすっかり秋へと移りつつあります。

さて、本年は、札幌大学創立50周年という記念すべき年を迎えました。一方、1989 (平成元) 年12月に父母の応援団として発足した後援会は、広く皆で公平に負担する納入制度の見直しもあり、安定財源のもとで支援活動を展開し現在に至っています。変化の激しい現代社会で大学生を取り巻く環境も変化し続けるなか、面倒見の良い大学が求められるようになっており、イマドキの学生が何を求めているのかということをおぼろげに掴むことが重要なのは言うまでもありません。在学生はキャンパスライ

フを通して後援会の支援に触れ、その恩恵を受けることができます。また、保護者の方は大学運営のサポートを通して、学生の成長に関ることができ、学生も諸活動を通して大学の新たな伝統を創ろうとする想いが醸成されるものと捉えます。大学の記念すべき節目を祝福しつつ、後援会としては自組織の本質を再認識しています。

今号は、後援会が、大学の施設設備の整備充実に対して援助を行ったこと (1面)、大学が推進するアクティブラーニングを展開する荒木ゼミナールの紹介 (2面)、1、2年次生が入学時から積極的な意思を持ち実行委員の中心となりメモリアルな大学祭、文連祭を仕切ったこと (3面)、就職活動の成果の表れとして大学では過去最高の内定率となったこと (3面) 等を取りあげています。

秋学期が始まり、本学生には今年厳しい暑さを経験し夏休み充電を終えたと感じさせるパワーで、この恵まれたキャンパスにふさわしい活躍を期待します。